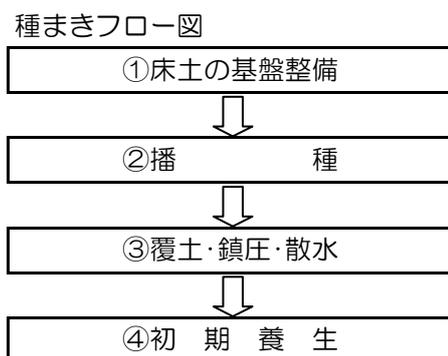


－ 家庭の芝生 作り方・育て方 －

<芝種子の播き方>



①床土の基盤整備

- ①-1 雑草・石などを完全に除去しスコップなどを使用して、芝生の根が生育する深さ20cm～30cmまでの土壌を耕します。
- ①-2 基肥としてスノーユーキ1号（8-12-10-3）を50～100g/m²散布します。pH改良の必要がある場合は石灰などを同時に100g～200g/m²散布し、深さ10～15cmの表土と良く混合します。
- ①-3 大人がのって、軽く足跡が付く程度まで鎮圧し、レーキを使って床土の表面が平坦になるまで整地を行います。全体に少し傾斜をつけるか、中央を少し高くして雨水が溜まらない様に整地すると排水が良好になり芝生が健康に生育します。



<スノーユーキ1号>

②播種

- ②-1 適期に播種することをお勧めいたします。

春	5月上旬～7月上旬	秋	8月中旬～9月中旬
---	-----------	---	-----------

- ②-2 レーキなどを利用し床土表面に予め筋をつけておきます。
- ②-3 バケツに種子を計り取り、手播きで播種します。種子を予め等分しておき、数回に分けて縦横斜めに播種を行うと、均一に播種することが出来ます。面積が大きい場合は、回転式の散布機（みのる散粒機など）で播種を行います。



<みのる散粒機>

③覆土・鎮圧・散水

- ③-1 覆土として②-2のレーキ跡と垂直になるようにレーキをかけます。レーキを細かく2～3cmの深さにかけることにより土と種子を良く混合させます。
- ③-2 鎮圧は、板を敷いて上に乗るなど（ローラーがあればローラーで）の方法で鎮圧を行います。種子を床土に密着させることで、種子を発芽直後の乾燥からある程度守ることが出来ます。
- ③-3 寒冷紗などで表面を被覆すると、極度の乾燥を防ぎ、種子の発芽が揃います。乾燥がひどい場合は、散水を行います。

④初期養生

播種後、10～14日位で発芽します。芝刈りは草丈が50～80mmになってから開始します。1回目の芝刈りは、葉先を揃える気持ちで30mm～50mm程度に刈り揃えます。1週間に1～2回程度芝刈りを行い、徐々に刈高を下げても目標の高さにします。



<芝生の管理>

■芝刈り

刈り取りは、芝生の徒長を防ぎ、低い草生に維持するために行いますが、芝草の分けつとほふく茎の発生を促進して、密度を高める効果もあり、結果的に雑草の侵入を軽減することができます。刈り取り間隔は、芝草の高さに応じて決定しますが、25～30 mmの草丈を維持するためには、週1～2回以上の刈り取りが必要となります。

芝刈り機は、リール式（回転刃と下刃の噛み合わせにより刈取る）とロータリー式（プロペラ状の回転刃で叩き切る）があり、どちらも手押し式と自走式があり、弊社園芸センターでも購入できます。



■施肥

芝生の施肥には、芝生専用の化成肥料を使用することをお勧めいたします。畑作用の肥料など、肥料成分が多いものは「肥料焼け」を起こしますので芝生には向いていません。肥料に含まれる窒素成分は葉緑増進、葉の展開などに、リン酸成分は、根の発達、呼吸、光合成、タンパク合成などに、カリ成分は、光合成、酵素の触媒、気孔開閉、貯蔵養分の蓄積などに利用されます。

ケンタッキーブルーグラスの年間の肥料要求量は、成分量で、窒素13～25、リン酸10～15、カリ10～15 g/m²とされています。これを年間5～10回に分け、1回当り窒素成分量で2～4 g/m²を施肥します。1回の施肥量が多すぎても、肥料焼けを起こして芝生が痛みますので注意が必要です。

肥料はスノーユーキ1号（8-12-10-3）をお勧め致します。

■散水

年間を通して良好な状態を維持していくためには、乾燥期に散水を行うことが必要です。晴天の日が1週間程度続いたらスプリンクラーなどで散水を行いますが、なるべく気温の低い午前中に行います。一般的に、昼間の散水では湿度が高まり高温多湿で病害が発生しやすく、また夕方の散水では夜間の地温が下がり生育が停滞しやすいと言われています。



■更新作業

1) 目土散布

芝生の表面から新しい土壌を供給することを目土と言います。目土の量は1回当り、2～3mmで、施用後は芝目に良く擦り込む必要があります。目土の量が多く、芝草の葉が隠れてしまった所は、数日で枯れることがあるので注意が必要です。

雑草種子の混入が少ない「芝生用目土」を使用することをお勧めいたします。

①目土散布は芝草の生育が盛んな5～6月、及び8月下旬～9月中旬が適します。

②目土散布は晴天の日に、芝草の葉が乾いている時に行います。

③目土散布は、刈り取り作業の後に行います。

④芝生の上に目土をこぼさない様に芝地の外で、必要量をバケツなどに計り取ります。

⑤ふるいを使って、ふりかける様に均一に散布します。

⑥レーキや熊手を使って、目土を芝目に良く擦り込みます。

2) コアリング（穴あけ）作業

通気性の改善、土壌固結の緩和などを目的に、フォークまたはローンスパイクなどを使用して、コアリング（穴あけ）を行います。芝草の生育を見ながら、通常は年に1～2回、芝草の生育が盛んな時期に行います。